

人生の成功者は、気づきや直観を大切にしているといわれます。何かに気づいた時に、それを如何に捉え、行動に移し、人生に活かしていくかが大切です。

日頃の「些細な気づき」を行動に変えて、うまくいくか、いかないかを試していくことで決断力を高めることができます。

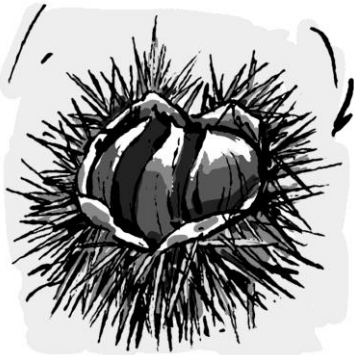
九州に住むYさんは、二世帯で暮らしています。ある夜、家でテレビを見ていると、中学生の長男が二階から勢いよく駆け降りてきました。焦った声で「お父さん部屋のドアノブが壊れた；開かない」と言います。

Yさんは「壊れたんじゃないやなくて、壊したんじゃないのか」と長男を責めながら階段を上り、ドアを開けようとしたが、やはり開きません。ドアノブを固定している二本のネジが緩んで、ノブが空回りをしていたのです。

すぐに電動ドライバーを持ってきて、しっかりとネジを固定した矢先、今度は一階からYさんの父が助けを求めてきました。へ何だろ？～）と思いながら父のもとに行くと、脱衣所のドアが壊れて閉じ込められていたのです。

なんとかこじ開けて修理を施し元通りにはなったものの、二カ所のドアが同タイプミッドで壊れたことが、Yさんには不思議に思えてなりませんでした。

翌日、経営者モーニングセミナーがあり、ドアが壊れたことを講師に話しました。すると講師から「ドアが壊れたことは偶然でしょう。それが気にかかるということは、Yさん、お父様とご長男との間に、何か問題があるのではないですか」と尋ねられたのです。



思い立つ日が最上吉日

心当たりはありました。一週間ほど前、Yさんは金銭面で父と言い争い、それ以来口を利いていませんでした。家の中で時々寂しうにしている父を見ると、（悪いことをしたな）とは思いますが、気持ち切り替えることができないのでした。長男に対しては、進んで勉強しないことに苛立つて「宿題したか？」と頻繁に確認をしていたのでした。

その日、帰宅したYさんはすぐに父に謝りました。すると「俺も言い過ぎたと思ってる」と思いがけない一言を受け、その後の会話で父の愛情に触れ親子の絆を深めたのです。Yさんは長男を観察してみました。それが自身を振り返る契機となりました。自分も長男と同じ年頃に、両親から「宿題はしたのか」と言われ、嫌々ながら勉強していたことを思い出しました。へ息子も同じ気持ちで勉強しているのかもしれない～）と思い、責めるよりも行動した時に（よく頑張っているな）と褒めることを意識して接することにしました。

また、Yさんを厳しく躾てくれた母の墓前で、（言うことのきかない息子ですまなかつた）と謝罪しました。Yさんの心に変化が起きると、長男の成績は上がっていったのです。二つのドアが同時に壊れたことに違和感を持ち、行動に移さなかつたならば、父母の恩愛に遡ることになりませんでした。

「些細な気づき」を行動に起こすことで、心のわだかまりが解消されるでしょう。気づいたら行動することを繰り返していくと、物を鋭く見抜く力がつき、最良の決断へとつながることを身をもって体験できるはずです。